

■■■ 新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。 ■■■

セヘ ポンマニ パドゥプシヨ (新年、たくさん福をうけとってください)。

昨年は、KFCが発足してから20年の区切りの年となり、支えていただいていた多くの人たちと交歓の時間を持たせていただくことができました。あらためてお礼を申し上げます。

KFCは、今まで多くの人たちから大きな支援や大切な時間を提供いただき、少しずつですが、成長できたように思えます。

2018年、新しい年、成長したからこそ立てられる旗を今までよりも高いところに、皆が見られるように掲げていきたいと考えます。

その旗が、一人一人違いはあっても、人として大切にされ、平等に生きられる公正な社会づくりにむかっていける力強いものになれるよう力を尽くす所存です。

今年もご協力お願い致します。(理事長 金 宣 吉)

◆理事からの新年のあいさつ

KFC会員の皆様、あけましておめでとうございます。セヘ ポク マ~ニ パドウセヨ!!

昨年、韓国では緊張が続き大変でしたが、今年は2月の平昌オリンピック・パラリンピックに応援ツアーに行きます。KFCでは、定住外国人のための多様な事業を、しっかりとやって来れたと思います。色々と大変な現場でがんばっているスタッフのみなさん、支えて下さるサポーターのみなさまに心から感謝します。今年も共に元気に歩んでいきましょう。(副理事長 李 圭 燮)

明けまして、おめでとうございます。

KFCは昨年20周年を迎え、すばらしい記念式典を開くことができました。人間でいえば成人となり、社会の未来をになう公共的な役割をますます期待されます。

わたしは「KFCみんなのダイニング」でボランティアをさせてもらい、昨年からは学校で実施するKFC教育プログラムの開発にも取り組み始めました。皆様とともに、移民・外国人の人権が守られる社会の実現に向けて今年も頑張りたいと思います。(理事 片田 孫 朝日)

明けましておめでとうございます。昨年は、個人的にも仕事の上でも文字通り「怒濤の一年」。そんな中でも割と心穏やかに冷静でいられたのは、二年半前からはじめた合気道のおかげでしょうか!? 合気道は危険を察知するセンサーの感度を上げるものだと聞いたことがあります。ダークサイドに屈しないジェダイの戦士 (by スターウォーズ) めざして、まだまだ鍛錬をつづけます。今年もよろしく願いいたします。(理事 野崎 志帆)

2017年は、トランプ米大統領の就任、米朝危機、米国の親イスラエル政策と中東の反発等、世界情勢の混迷が深まった一年でした。日本では安倍政権下のさまざまな問題がありますが、個人的には右派メディアが「歴史

戦」という言葉を使って、学術研究の場に強引にナショナリズムを持ち込もうとしていることが気になります。我々の世代の底力が試される時代だと思えます。2018年もよろしく願い申し上げます。(理事 樋口 大祐)

2017年4月にグループホームハナを退職し、5月から訪問看護ステーション はれを開設しそこで訪問看護師として、毎日働いています。

それまでは介護事業所で働いていたので、介護スタッフとともに介護に関わり、指導援助をすることが日常的でありました。

訪問看護師となって一番感じることは、訪問看護の業務は、利用者の生活全般に関われないということです。生活全般に関われる業種は介護です。

介護の質が、利用者の生活の質の向上に直結します。

医療と介護の連携を通して、介護の質の向上に関わって行きたいと思っています。今年はその医療と介護の連携をグループハナでさらに具体的なものにしていきたいと思っています。(理事 山根 香代子)

あけましておめでとうございます。

今年は8月にジュネーブで人種差別撤廃委員会による日本の報告書審査が行われる予定になっています。ヘイトスピーチ対策法ができて2年目を迎えますが、依然としてヘイトデモ、インターネットでのヘイトスピーチが繰り返されています。あらゆる差別を許さない差別基本法の制定が必要です。また、最高裁による外国籍弁護士の調停委員採用拒否が続いています。日弁連を代表して、ジュネーブでこれらの問題を訴えていきたいと思えます。これからも定住外国人の権利擁護のために、KFCの活動に貢献できるようがんばります。今年もよろしくお願ひします。(理事 吉井 正明)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆「言語難民」とは

はじめまして。11月からボランティアをさせていただいている則政亜香梨（のりまさあかり）です。よろしくお願ひします。

みなさんは「言語難民」という言葉を聞かれたことはありますか。

私がこのボランティアに参加させていただいたきっかけは、大学の講義で「言語難民」について学んだからです。

今回はそのことについて少し書かせていただきたいと思います。

「言語難民」。日本には、様々な理由（家庭の事情や、親や旦那さんの赴任）で、日本に来られた外国人の方がいます。その中の多くの人たちが、日本に住んでいるにもかかわらず、日本語を話せません。特に子どもたちは授業で何を言っているかわからないのでただ座っているだけになり、クラスで友達をつくるのも難しく、孤立してしまっている状態であること。

また日本語教育が必要な子どもの多くが、人手不足から十分な指導が受けられていない現状を学びました。

私はこの講義を受けて、「自分も何か彼らの力になれるのではないか。」そう思い、すぐに関連するボランティアを探しました。そこで出会ったのがKFCでした。

ここで何か一つでも彼らの力になれるよう、「安心して学べる場」を届けたいと思っています。

(則政 亜香梨)

◆にほんごカフェについて

過去3回「にほんごカフェ」を開きましたが、12月17日（日）にも久しぶりに「デイサービスセンターハナの会」で開くことにしました。今まで同様に水曜クラスの支援者が中心となって、日本語の勉強とは別に、集い、おしゃべりを楽しんでもらうにはどうしたら良いかと話し合いました。お正月も近いので、「お雑煮とおせち」をメインにしようということになりました。

当日は10時から準備に入り、11時から学習者と一緒に雑煮作り、おにぎり作りをしました。初めての雑煮作りは、ノートにメモを取りながら楽しんでいたようです。おにぎり作りは木曜日の支援者が中心となって学習者と一緒に三角や、俵型のおにぎりをワイワイ言いながら作りしました。大皿に山盛りのおにぎりができました。

差し入れ歓迎と宣伝していた効果でしょうか、おせちにかかせない黒豆、ごまめ、かまぼこなどが集まり、手作りケーキやお菓子もたくさん差し入れされました。差し入れの料理は、重箱に彩りよく詰めました。お菓子も重箱にちょっとカッコよく入れていただきました。お重を開けると学習者の

方が写真を撮っていました。

学習者の方たちもキムチ、ナムルなどの韓国料理、タイ料理、ベトナムコーヒーなどを持ってきてくれました。本場の味を居ながらにして楽しませていただきました。

白みそとすましの2種類の雑煮を準備しましたが、30人分の雑煮はきれいに参加者のお腹に収まりました。

食べて、話した後は、腹ごなしに「ダンス教室」。簡単な(?) ソーシャルダンスのステップを教えていただきました。最後に先生お二人の模範演技を見せていただきました。

参加者は学習者(お子様も含め)11名、支援者22名でした。参加者みんなが十分に話し、楽しんだか気にかかりました。しかし、学習者同士、また、クラスの違う支援者との会話を楽しんだようでした。(石川 明子)

■■■ K F C外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆KFCみんなのダイニングに参加して思うこと

僕はみんなのダイニングにボランティアとして参加させていただいています。

このみんなのダイニングに通い始めたのは高2の夏頃からでした。ここを紹介されたのは学校の先生からでした。

初めてここに参加させていただいた時は何をどうしたらいいのか分からず参加しました。知り合いもいない場所に単身で行くということの怖さも面白さみたいなものも、ここで得られたことというのは、本当に大きかったなと思います。なんといってもいきなりやってきた高校生に子どもたちは容赦なく話しかけてくれる(高2の僕を23歳とか言ってきたけど)というのには、かなり驚いたし嬉しかったです。ある意味僕自身が彼らに助けられたおかげで、自分も新しく参加する子どもたちがどうすれば嬉しいのか、どう手助けをしてあげれば早く馴染みやすくなれるのかというのがよく理解できました。さらに、どの程度子どもにチャレンジしていいのかというのを定めきれずにいた自分の背中を押してくださったのは、スタッフの皆さんのおかげでした。

それから、いろいろなことがあり、ほぼ毎週参加させていただいていたのですが、1月より3か月ほどニュージーランドへ留学に行ってしまうその間は参加することができませんでした。ですが、僕はここで得た経験をうまく活かし、その三か月を素晴らしいものにすることができました。海外に留学に行くということは誰も知らない、言葉もろくに通じない土地に行くということ。最初は緊張もしたし怖かったです。しかし、僕は人とどう話せば心を開いてくれるのかが少し理解できるようになっていました。そこで、その方法を海外でも応用してホストファミリーと仲良くなることができました。

僕はこのKFCみんなのダイニングの場所を、人とどう仲良くなり、人にどう気を使えばいいのかを学ぶことができる、大人になるのに近づくことができる場所であると思っています。みんなのダイニングは子どもたちを成長させることができる場所であると考えています。(甲南高校3年 牧 陸斗)

◆外国にルーツを持つ職業人から話を聞く

外国にルーツを持つ人たちが日本でも様々な職業に就き、活躍している姿を子どもたちにも知ってもらい、職業選択の幅を広げてもらうことを目的として、11月22日(水)と12月6日(水)に本イベントを開催しました。

①ベトナムルーツの弁護士

トップバッターは、神戸で活躍している清田美夏弁護士でした。

「1980年代に両親がベトナムのボートピープルとして、ドイツ船に助けられフィリピン経由で来日しました。姫路定住促進センターに入所しているときに、私は生まれました。その後、尼崎へ引っ越し、小・中・高校と地元の公立の学校へ通いました。小学校はベトナム人だけの補習教室があり、KFCのような地域の学習教室でも勉強しました。中学時代は試験前に7時間は勉強し、ノートが1日でいっぱいになるくらい書いて覚えました。高校を選ぶときは周りに情報を持つ人がいなかったのので、近くの高校を選びました。中学時代は成績が良かったのですが、高校に入ると勉強不足を実感し、塾にも行き、さらに頑張って勉強しました。お金があまりなかったのので、国立大学を目指しましたが合格できず、私立大学に進学しました。大学では、成績優秀者は学費が免除になるシステムがあったので、勉強を頑張り免除を受けることができました。大学時代に人の役に立つ仕事になりたいと思い、弁護士を目指すようになりました。大学卒業後は法科大学院に入学し、弁護士になることができました。弁護士の仕事は、法律を使って人が安心して暮らせるようにサポートする仕事です。在留資格、DV、給料未払い、過労死、東日本大震災後の原発避難者の裁判など多岐に渉る相談があります。

勉強することで自分を高めていけるし、自分に誇りも持てるようになるので、みんなには大変でも頑張ってお勉強してほしいです。またベトナム語ができる人材は日本ではそんなに多くないので、ベトナム語を忘れないようにした方がいいと思います。」という内容のお話をさせていただきました。中学生からは、「破産とはどういうことですか」「どういう勉強の仕方をしていいですか」など

の質問がありました。
弁護士になりたいという中学生もおり、子どもたちがより前向きに学習に取り組んでもらえるきっかけになったのではないかと思います。

②中国ルーツの一般企業で働く社会人
2人目は、中国ルーツの邵惠森さんです。

「15歳の時、先に日本に来て働いていた父親に呼ばれて中国の大連から来ました。そして、1学年落として、神戸市内の中学校へ入学しました。人によって日本語習得までの期間は違うと思いますが、日本語ができるようになったと思えるまで私は3年かかりました。その後、無事公立の高校に合格し、大学に進学しました。今年4月からは大阪の企業に勤めています。

来日したばかりの時は、日本語を早く習得しようと、色々な日本語で話ができる場所に通いました。日本に来て苦労したことは、言葉の壁や文化の壁（上下関係や礼儀など）です。中国の学校では、頭の中でよく考えて間違わないようにしてからノートやテストに水性ペンで書くことを教えられており、日本の中学校の初めてのテストでも水性ペンで書きました。そうしたら、先生から怒られて、とてもびっくりしました。

来日10年になり、自分のことを何人かと考えると日本的な部分が大きくなり、一番「無国籍」がじっくりくるように思います。中国か日本かあえて答えるなら、中身は日本人だと思います。親とは同居しており家では中国語で会話をしますが、日本語を話したり、日本人と接したりすることの方が多からです。中国語の漢字を少し忘れ始めていますが、仕事などで必要になった時に少し勉強すれば思い出すと思います。

日本の漢字は読み方がたくさんあり覚えるのは大変ですが、本を読んだり、アニメでもいいので見たりして、こつこつ学習してください。毎日ニュースも見た方がいいと思います。」

年齢も近い身近でお兄さん的な邵さんには、「日本に来て大変だったことは」、「漢字の勉強の仕方はどうすればいいですか」など、たくさんの質問が中学生からでした。（志岐 良子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆ハナの送迎

あけましておめでとうございます。

日々、多くの方々に支えられている事に感謝申し上げます。

この度は、NHK歳末たすけあい義援金を頂き実施している居場所づくりを支えるための遠距離送迎について紹介したいと思います。

ハナの利用者である在日コリアン高齢者の多くが、震災の影響で住みなれた地域を離れ郊外の公営住宅などで孤独な生活を強いられています。また明舞団地に集住している中国残留邦人帰国者らも貧困や言葉の壁により孤立しがちな生活を送っています。言葉等の対応を求めて、遠いところにある私たちのデイサービスや施設へ通って来る方も多くいます。それが一般的なデイサービスで想定されている近隣の方の送迎との大きな違いの一つです。その為、片道20キロの送迎が毎日のように行われ、車両維持費からスタッフの負担まで様々な困難が生じています。

最も大変なのは利用者の心身機能の低下によって、自宅内介助で30分程かかることもあります。例えば、電気を消したり、上着等のお手伝いをしていたり、認知症の方に対して説得（迎えに来たわけ等々）説明したりと様々な援助を行うことがあります。今回はその様子的一端を知ってもらうため、2017年9月から働いている送迎担当の山下俊平の感想を皆さんと共用したいと思います。2018年もスタッフ一丸となり、利用者の文化的な配慮のできる居場所を支えていきたいと思っています。（フフデルゲル）

私、山下俊平 七十歳

この年になって、ハナの会の送迎ドライバーの仕事をする事になり、初めは出来るか不安でしたが、三日四日と仕事している内に、ご利用者様の顔と名前がわかって来ました。ある人は手をつなぎ、ある人は玄関までついて行き、その内私の母の事を思い出しました。母はアルツハイマーになってグループホームに四年いました。今思えば、もっと足を運んでいたらと思います。これからもお客様の送迎ドライバーとして仕事に励みます。スタッフの方や責任者にアドバイスを聞いて仕事をして行くことになるとと思います。

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆ふたば文化祭

11月26日ふたば学舎にてまちの文化祭が開催されました。新長田帰国者交流会のみんなは秧歌の中国伝統民族舞踊を屋内の舞台上で披露する一方、屋外ではスープワントンの屋台を出店しました。

10時から迫力満点な太鼓演奏と共に文化祭スタートしました。私は当日屋台を担当し、鶏ガラからスープを作り、100%手作りにこだわったワントンで売れるようにしました。一世の帰国者村上慶子さんと劉桂麗さんにお手伝い頂いて、数時間立ったまま呼び込みや接客などを頑張りました。予定通り全部売れることはできなかったのですが、みんなと一緒に出店して働くことができ何より嬉しかったです。

13時から舞台上で帰国者の秧歌が披露されました。中国ではお祭りやお正月・祝祭日の時に大勢の人々が、みんな一緒に街中で秧歌を踊りますが、舞台はスペースが限られるので、観客席まで踊りの列が作られました。中国の太鼓やシンバルによる生演奏と共に、鮮やかな衣装、扇子で会場が一瞬に華やかになりました。観客たちは舞台より身近に踊りを楽しむことができましたと思います。

文化祭で秧歌を披露するため何度も練習を重ねてきました。踊り自体は完成度が高くないかもしれませんが、喜びと感謝の気持ちをそのままストレートに表現する秧歌踊りが私は大好きです。日本社会で孤立しがちな帰国者たちの存在をこのような地域の文化祭を通して、多くの日本人に知ってもらい、理解されるようになればいいと思います。(季 穎)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ ■■■

◆合同運動会は爆笑のうず

去る11月29日(水)に、グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナの合同運動会を開催しました。

お玉リレー、玉入れ等、定番ながら楽しめる種目と、今年度は、パン食い競争ならぬ『ドーナツ食い競争』をしました。その競技が非常に楽しく盛り上がりました。車椅子に座り、釣り下がったドーナツ(袋入りのもの)を口でくわえて、引っ張るのですが、なかなか、うまくいきません！私も挑戦しましたが、見ているのとするのは大違いでした。ドーナツは、紐でつり下げられているため、ゆらゆら動いたり、くるくる回ったりして、まず、口にくわえるのに時間がかかります。引っ張る時も、手は使えず口力だけのため、少し力が弱いとすると口から袋が抜けて、もう一度再チャレンジです。ドーナツがゆらゆらする前に素早くくわえ、一度くわえたら離さない！ぐらいの運動神経と反射神経(?)が必要。利用者の中で、ほんの数秒でなしとげた方がいて驚いたのですが、若い時から、運動が得意で少しおてんばだったようです。一人ひとり、利用者・職員含めて、参加者はほぼ全員チャレンジしましたが、非常に楽しく、大笑いをして時間が過ぎました。笑いは最大の癒し効果があるといわれますが、皆さまいい顔をされていたように思います。また、日々の中でも、レクリエーションや活動の中で、笑顔の時間を増やしていきたいと思います。年末には、クリスマス会もしました。

2017年は、皆様方には、大変お世話になりありがとうございました。2018年もグループホームハナ、小規模多機能型居宅介護ハナをよろしく願います。

良いお年を迎え下さい。(施設長 森 佳緒里)

■■■ 今後の予定 ■■■

■日本語プロジェクト

2月17日(土)
大人の外国人の学習の場について考える
於 K I C C会議室

■KFC帰国者新長田交流会
1月9日(火) 農園活動

■多文化子ども共育センター
1月6日(土)~3月24日(土)
就学前の子どものプレスクール事業

2月20日(火)
教員・KFC支援者対象研修会
「発達障害とは」